

北海道大学の安全衛生巡視体制が日本産業衛生学会の「第13回GP奨励賞」を受賞  
北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙行  
北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー称号授与式を挙行





北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙



令和4年度新渡戸カレッジ入校式を開催

## 全学ニュース

- 1 北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙
- 2 北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー称号授与式を挙
- 3 令和4年度新渡戸カレッジ入校式を開催
- 4 全学インターンシップ履修説明会（国内）を開催～学部1・2年生向けのインターンシップも実施予定～
- 5 令和4年度第2回 定例記者会見を開催
- 6 北大フロンティア基金
- 9 本学の安全衛生巡視体制が日本産業衛生学会の「第13回GP奨励賞」を受賞
- 10 世界知的所有権機関（WIPO）GREENのパートナー加入

## 部局ニュース

- 11 文学研究院FD「学生指導とハラスメント行動をめぐる本学の現況について」を開催
- 12 故Daniel Rudolf King先生を偲ぶ会を開催
- 13 水産科学研究院・水産科学院及び水産学部が北海道漁業協同組合連合会と連携協定を締結
- 14 スラブ・ユーラシア研究センター公開講座「融解する帝国—ロシア帝国崩壊を境界地域から考える」を開催
- 14 地域研究に関わる戦略的発展のためのパートナーシップ協定を締結
- 15 北方生物圏フィールド科学センター名寄教育研究棟の新棟が完成
- 16 和歌山県農林大学校と和歌山研究林が包括連携協定を締結

## 表敬訪問 17

## 訃報

18 助教 Daniel Rudolf King 氏

## 資料

- 17 在籍学生数（令和4年5月1日現在）
- 19 令和4年度外国人留学生数（令和4年5月1日現在）
- 20 令和4年度国別外国人留学生数（令和4年5月1日現在）



故ダニエル・キング・ルドルフ先生を偲ぶ会を開催



大学院水産科学研究院・水産科学院及び水産学部が北海道漁業協同組合連合会と連携協定を締結



北方生物圏フィールド科学センター名寄教育研究棟の新棟が完成



和歌山県農林大学校と和歌山研究林が包括連携協定を締結

表紙：北海道大学ディスティングイッシュトリサーチャー称号授与式を挙（関連記事2頁に記載）

裏表紙：キャンパス風景⑳ 水産学部附属練習船「おしよろ丸」（函館市弁天埠頭）

## ■全学ニュース

# 北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を挙

5月10日（火）、北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号授与式を執り行い、関係者列席の下、今年4月に新たに称号を付与された者4名（原島秀吉教授、伊藤 肇教授、鈴木定彦教授、西浦廉政招へい教員）に対し、寶金清博総長から称号楯が授与されました。

北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー制度は「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」の策定を機に、教育研究の一層の推進に資することを目的として、平成26年度に創設したものです。人格が高潔で、世界水準の優れた研究業績を有し、今後更なる研究の進展が見込まれるとともに、

本学の名誉を著しく高めることが期待できる本学の教員等へ称号を付与します。

なお、今年度に称号が付与された者（更新となった者を含む）は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課）

所 属	職名	氏 名	称号付与期間	備考
薬学研究院	教授	原島 秀吉	令和4年4月1日～令和5年3月31日	新規
化学反応創成研究拠点及び工学研究院	教授	伊藤 肇	令和4年4月1日～令和7年3月31日	新規
人獣共通感染症国際共同研究所	教授	鈴木 定彦	令和4年4月1日～令和5年3月31日	新規
理学研究院	招へい教員	西浦 廉政	令和4年4月1日～令和5年3月31日	新規
医学研究院	教授	白土 博樹	令和4年4月1日～令和7年3月31日	期間更新
環境健康科学研究教育センター	招へい教員	岸 玲子	令和4年4月1日～令和5年3月31日	期間更新
先端生命科学研究院	招へい教員	コスタンティノ クレトン	令和4年4月1日～令和5年3月31日	期間更新
先端生命科学研究院	招へい教員	マイケル ルビンスタイン	令和4年4月1日～令和5年3月31日	期間更新
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	ロレーナ エリザベス ブラウン	令和4年4月1日～令和5年3月31日	期間更新
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	ウィリアム ウォームスリー ホール	令和4年4月1日～令和5年3月31日	期間更新
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	エリザベス ルーズ ハートランド	令和4年4月1日～令和5年3月31日	期間更新
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	デイビット チャールズ ジャクソン	令和4年4月1日～令和5年3月31日	期間更新
人獣共通感染症国際共同研究所	招へい教員	アーナブ ペイン	令和4年4月1日～令和5年3月31日	期間更新



授与式の様子



写真手前：左から山口理事・副学長、伊藤教授、原島教授、寶金総長  
写真奥：左から西浦招へい教員、鈴木教授

# 北海道大学ディスティングイッシュトリチャー称号授与式を挙

5月13日（金）、北海道大学ディスティングイッシュトリチャー称号授与式を執り行い、関係者列席の下、新たに称号を付与された者8名（前田 理教授、相馬雅代准教授、跡部 発准教授、中島 祐准教授、白崎伸隆准教授、富岡克広准教授、古川森也准教

授、安成哲平准教授）に対し、實金清博総長から称号楯が授与されました。

北海道大学ディスティングイッシュトリチャー制度は、本学の教育研究の一層の推進及び優秀な若手教員の確保に資することを目的として、本年1月に創設したものです。専門分野に

おいて高い研究業績を有する本学の若手教員等に対し、称号を付与します。なお、今年度に称号を付与された者は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課）

所 属	職名	氏 名	称号付与期間
化学反応創成研究拠点及び理学研究院	教授	前 田 理	令和4年4月1日～令和7年3月31日
理学研究院	准教授	相 馬 雅 代	令和4年4月1日～令和5年3月31日
理学研究院	准教授	跡 部 発	令和4年4月1日～令和7年3月31日
先端生命科学研究院	准教授	中 島 祐	令和4年4月1日～令和6年3月31日
工学研究院	准教授	白 崎 伸 隆	令和4年4月1日～令和7年3月31日
情報科学研究院	准教授	富 岡 克 広	令和4年4月1日～令和7年3月31日
触媒科学研究所	准教授	古 川 森 也	令和4年4月1日～令和7年3月31日
北極域研究センター	准教授	安 成 哲 平	令和4年4月1日～令和6年6月30日



授与式の様子



授与式後の記念撮影

# 令和4年度新渡戸カレッジ入校式を開催

5月14日（土）、新渡戸カレッジ入校式を高等教育推進機構にて執り行いました。

N1講義室において大学院教育コース入校式が行われ、寶金清博校長（北海道大学総長）による挨拶の後、新渡戸カレッジ関係教員・メンターの紹介が行われ、メンターを代表してラワンカル・アビジートさんの挨拶がありました。その後、修了生代表として鈴木宙也さん、入校生代表として山崎美空

さんの挨拶が行われました。同日に入校時オリエンテーションと授業も行われました。

続いて、大講堂において学部教育コース入校式が行われ、寶金校長による挨拶の後、フェローを代表して石川めぐみさんによる挨拶がありました。修了生代表の荒 幹彦さん、及び在校生代表の中山芽生さんからの祝辞が披露された後、入校生を代表して平山 薫さんが挨拶を行いました。その後、昨

年度に優れた活動を行った学生4名に対し、新渡戸カレッジ奨励賞授与の表彰式が行われ、最後に令和3年度新渡戸学（フェローゼミ）公開シンポジウム学生大賞ゼミ（廣重ゼミ）の成果発表が行われ、式は無事に終了しました。

（学務部教育推進課）

令和4年度5月新渡戸カレッジ入校者一覧

プログラム	コース	入校生数
基礎プログラム	学部教育コース	278
	大学院教育コース	49
オナーズプログラム	学部教育コース	136
	大学院教育コース	11



寶金校長の挨拶



入校生代表 山崎さんの挨拶



石川フェローの挨拶



入校生代表 平山さんの挨拶

# 全学インターンシップ履修説明会（国内）を開催 ～学部1・2年生向けのインターンシップも実施予定～

5月13日（金）と5月24日（火）、高等教育推進機構高等教育研究部とキャリアセンターの主催で、「全学インターンシップ履修説明会（国内）」をオンラインで開催しました。

全学インターンシップは、インターンシップ先の企業・団体等の開拓や調整、学生の選考、インターンシップ参加前や参加後の学生への研修に大学が関与する、正課の教育科目としてのインターンシップ制度です。夏季休業中に原則8日間程度以上のインターンシップを推進しており、就業体験におけ

る教育効果を高めています。

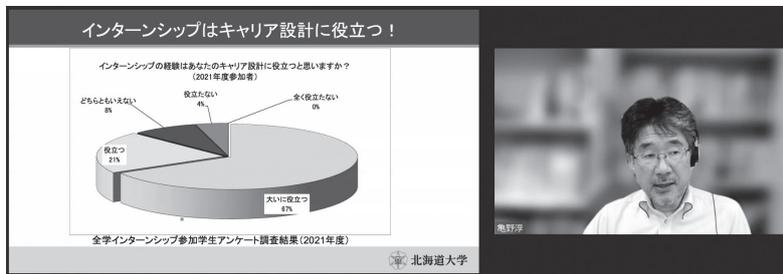
履修説明会では、インターンシップ担当教員である高等教育推進機構の亀野 淳教授が、全学インターンシップ制度における手続きや支援の内容、過去の参加学生のアンケート結果などを説明し、約400名の学生が参加しました。また、経済同友会と連携し、充実した内容のインターンシップが人気となっている「学部1・2年生専用のインターンシップ」についても説明を行い、120名を超える1年生、2年生が参加しました。

今後、6月から派遣先企業とのマッチングを開始し、教員による選考や7月の事前研修、学生との個人面談を経て、夏季休業期間中の8月～9月にインターンシップが実施される予定です。本学も総務企画部人事課が窓口となり、本学学生のインターンシップ受入れを予定しています。

インターンシップ参加前後に教育効果を高める各種研修も随時実施していきます。

（キャリアセンター）

日時：2022年5月13日（金）18：15～19：45、5月24日（火）16：45～18：15  
 会場：オンライン配信及びオンデマンド配信 ※オンデマンド配信について学生はELMSで視聴可能  
 主催：高等教育推進機構高等教育研究部/キャリアセンター  
 当日進行：キャリアセンター インターンシップマネージャー 太田順也  
 担当教員：高等教育推進機構 亀野 淳教授、川上あき特任講師  
 詳細：キャリアセンターウェブサイト <https://cc.academic.hokudai.ac.jp/>



説明する亀野教授

## 令和4年度第2回 定例記者会見を開催

5月19日（木）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けてわかりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」を開催しました。吉見 宏理事・副学長（広報・社会連

携室長）の進行のもと、獣医学研究院の石塚真由美教授、アイヌ・先住民研究センターの加藤博文教授及び低温科学研究所の杉山 慎教授が発表し、北海道教育庁記者クラブ加盟社等から5

名の参加がありました。発表内容は以下の通りです。

（社会共創部広報課）

### 発表事項（発表者）

- ・Hokkaido サマー・インスティテュート 2022について  
（獣医学研究院 教授 石塚 真由美）
- ・SDGs演習：課題解決に向けた国際共修PBL  
（アイヌ・先住民研究センター 教授 加藤 博文）
- ・南極学特別講義Ⅱ  
（低温科学研究所 教授 杉山 慎）

※発表資料掲載URL

<https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/office/pr/press-conference/R4.html>



定例記者会見の様子



発表を行う石塚教授



発表を行う加藤教授



発表を行う杉山教授

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

**北大フロンティア基金情報**  
**基金累計額** (4月30日現在)

33,223件 5,892,396,778円

## 4月のご寄附状況

法人等26社、個人208名の方々から51,140,088円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

### 寄附者ご芳名 (法人等)

石上車輛株式会社、いしだ歯科医院、イムノサイエンス株式会社、衛生工学12期、江別市病院事業管理者、一般社団法人 小樽市医師会、特定非営利活動法人 環境リレーションズ研究所、ケント・ハウス株式会社、医療法人社団斎藤会 さいと歯科、社会医療法人北楡会 札幌北楡病院、札幌臨床検査センター株式会社、一般財団法人砂防・地すべり技術センター、JA北海道厚生連札幌厚生病院、株式会社ジュリスティックス、医療法人緑風会 新琴似皮膚科スキンケアクリニック、社会医療法人 製鉄記念室蘭病院、大地コンサルタント株式会社、医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院、羽賀スキンケアクリニック、社会医療法人 母恋、北海電気工事株式会社、株式会社マイ・アール 保険調剤いちご薬局、株式会社MediFace、株式会社モルフォテクノロジー

### 寄附者ご芳名 (個人)

合川 正幸	青木 俊介	阿部 雅史	荒川 晃生	有村 直子	安齋 洋一	安藤 伸一	五十嵐恵一郎
五十嵐三津雄	石井 哲夫	石川 久会	石川 麻倫	石川三千雄	石田 人士	石橋 寛久	石村孝太郎
石渡 英夫	猪股 路子	井原 博	入澤 秀次	岩崎 卓夫	宇佐美 徹	梅本 由佳	江本 永二
縁記 和也	遠藤 公憲	大居 健二	大熊 成美	大畑 昇	大原 正範	岡田 厚夫	男鹿谷 修
奥田 英信	小田原一史	小原 大和	小柳 毅	影岡紗有里	梶本 昌子	片山 琢	加藤 元
金川 真行	河合 新三	河本 充司	衣川 暢子	木村 祐介	久米 吉裕	栗橋 秀幸	栗原 秀幸
栗本 完	後藤 恒生	後藤 普	小林 賢人	小松 愛子	今野 哲	齊藤 晋	齋藤 久
榊原 勉	坂本 大介	笹川 憲子	佐藤美恵子	佐藤 康訓	澤井 一彦	澤 貴仁	三升畑元基
ジェガミコワイ	志済 聡子	品川 尚文	嶋田 誠	島田 泰栄	下橋 正和	菅原 新也	杉江 和男
鈴木 貴之	鈴木 正司	瀬尾 淳一	瀬名波栄潤	瀬山 邦明	平 裕	滝澤 哲也	竹内 祐一
巽 聡子	田中 洋子	辻野 一三	土屋 俊亮	土家 琢磨	土屋 洸子	角井 淳一	寺井伊都子
寺澤 睦	鳥海 滋	豊田 威信	長島 健一	中塚 英俊	中村 敏和	西田 実弘	野島 孝之
花田 秀一	林 秀幸	春名 敏弘	福土 幸治	福島 善司	福永 悟郎	藤澤 裕子	藤田 靖浩
藤森 康澄	藤原 晶	古田 康	前田智恵子	前田 博	松石 隆	松浦 清	松野 孝平
松原 謙一	丸井 渚生	宮澤 達也	宮田 信幸	武藤 健一	村岡 俊二	村上 幸夫	村瀬徳啓充
村本 太平	矢澤 正光	矢嶋 剛	柳澤 達也	箭原 修	山下 俊介	山下 貴正	山田 紀広
横山 考	吉岡 正俊	吉田 広志	LeeAbby	渡辺明日香			

## 銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

## （個人）

安齋 洋一、岩崎 卓夫、大居 健二、小柳 毅、河合 新三、栗本 完、榊原 勉、澤 貴仁、竹内 祐一、  
田中 洋子、辻野 一三、土屋 俊亮、土屋 洸子、野島 孝之

## （法人）

衛生工学12期、ケント・ハウス株式会社、株式会社ジュリスティックス、  
医療法人緑風会 新琴似皮膚科スキンケアクリニック、株式会社マイ・アール 保険調剤いちご薬局

## 〈4月・5月 感謝状の贈呈〉



三井不動産株式会社 様（令和4年4月22日）



北大全学教育基礎科目教科書  
『地球惑星科学入門』著者一同 様（令和4年4月26日）



草野作工株式会社 様（令和4年4月27日）



中川 洋 様（令和4年5月11日）



行政書士事務所 みなかたパートナーズ 様  
（令和4年5月13日）



宮脇 敬 様  
※宮脇 慶子様の感謝状も同時に贈呈させていただきました。  
（令和4年5月16日）



特定非営利活動法人  
北海道エコビレッジ推進プロジェクト 様 (令和4年5月17日)



伊藤組土建株式会社 様 (令和4年5月19日)



株式会社OHEN 様 (令和4年5月20日)



株式会社学生情報センター 様 (令和4年5月24日)



加藤 元 様 (令和4年5月26日)



工藤 寛 様 (令和4年5月27日)

### ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。  
<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

#### ① 給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書 (兼・給与口座からの引落依頼書)」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

#### ② 郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

#### ③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書 (教職員現金用)」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しただいてからご記入いただくことも可能です。

#### ④ クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 卒業生・基金室基金事務担当 (事務局・学内電話 2017)

(社会共創部広報課)

# 本学の安全衛生巡視体制が日本産業衛生学会の「第13回GP奨励賞」を受賞

本学の安全衛生巡視体制が、5月25日（水）に開催された第95回日本産業衛生学会で表彰されました。日本産業衛生学会では、産業界を中心に幅広い事業場を想定して、産業医や衛生管理者などの産業保健（安全衛生）専門職の生涯教育の教材となる好事例をGPS（Good Practice Samples）として公開しており、GP奨励賞はそのなかから優れた取り組みに対して授与されるものです。

本学の安全衛生巡視体制について

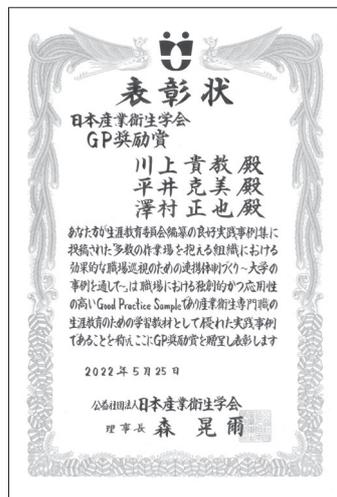
は、①チェックシートによる自己点検、②網羅的な衛生管理者巡視、③それをスクリーニングに使った産業医巡視、という3段階の連携体制となっており、「多数の作業場を抱える組織における効果的な職場巡視のための連携体制づくり－大学の事例を通して－」として日本産業衛生学会のGPSサイトで公開されています。

本受賞は本学の安全衛生巡視体制への評価であり、本学の巡視体制を支える一員として、日ごろからチェックシ

ートの記入や巡視への対応など各部署等でご対応いただいていた皆様方に対する評価も含まれますことから、この場を借りて御礼を申し上げます。

なお、コロナ禍で一部入室を中断していましたが、安全衛生本部の巡視担当による入室巡視は順次再開していますので、引き続き安全衛生巡視体制へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

（安全衛生本部）



第13回GP奨励賞表彰状



授賞を喜ぶ安全衛生本部スタッフ

# 世界知的所有権機関 (WIPO) GREENのパートナー加入

4月29日（金・祝）、本学はSDGsへのさらなる貢献を進めるため、世界知的所有権機関（WIPO（\*））が運営する環境技術の技術移転を促進するためのグローバルプラットフォーム「WIPO GREEN」にパートナーとして加入しました。

WIPO GREENは、2013年に環境技術の開発と普及を後押しすることを目的として立ち上げられ、オンラインデータベースを通じ、環境技術の提供者と利用希望者とを地球規模で繋ぎます。現在、データベースには、120,000

件以上の環境技術、ニーズ、専門家が登録されており、世界中で1,900者以上のユーザーに利用されています。

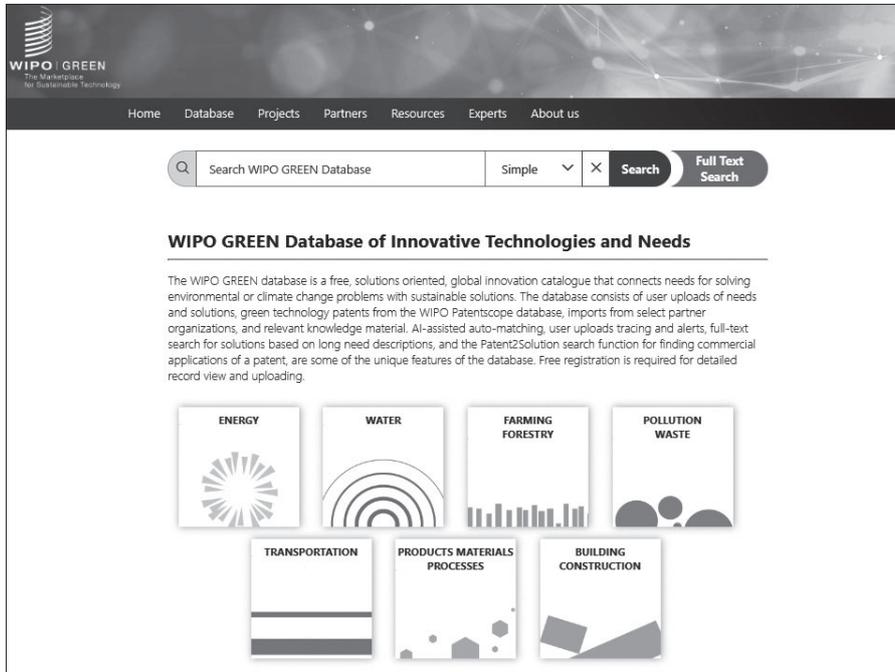
今回のパートナー加入により、本学の研究成果をデータベースに登録してグローバルな技術移転機会の増加を図るとともに、WIPOの諮問会議への参加等を通じた意見発信も可能となります。

産学・地域協働推進機構では、今後も本学の環境技術に関連する研究成果を積極的に世界に発信し、技術移転を図ることを通じて、SDGsへの貢献を

一層進めてまいります。

（\*）WIPOは国連の専門機関の一つであり、すべての人の利益となるイノベーションと創造を可能にする、バランスの取れた効果的で国際的な知的所有権（IP）システムの開発を主導することを目的に、1967年、ジュネーブにて設立されました。知的財産の活用を通じ、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）への貢献を目指しています。

（産学・地域協働推進機構）



<https://wipogreen.wipo.int/wipogreen-database/database> より～

## ■ 部局ニュース

# 文学研究院FD「学生指導とハラスメント行動をめぐる本学の現況について」を開催

文学研究院では、昨年度に引き続き、ハラスメント防止（予防）に係る知見を得るためのFD研修を5月20日（金）午後1時からZoomによるオンライン形式で開催しました。講師には、本学のハラスメント相談室で実際の業務に当たられている専門相談員で弁護士の上田絵理氏と、臨床心理士の柿崎真実子氏にお願いし、少人数のオンラインでの「グループミーティング」、質疑応答を含み約1時間にわたって実

施しました。

内容は、副題として「～最悪の事態を招かないために教員は何に留意すべきか2022～」とし、①本学におけるハラスメントの定義、②文学研究院が2021年2月に定めた「教育・研究指導におけるハラスメント行動防止指針」の紹介、③ハラスメントを避ける指導上の工夫、④事例を用いたワーク（個人ワーク、グループワーク、全体共有）、⑤本日のまとめ、トラブルを避

けるための工夫、の5節で行われ、特に事例を用いたワーク（個人、グループ）では、各教員が事例に対して積極的な意見交換を行い、日頃の教育・研究指導のあり方について考えるよい機会となりました。

今回のFDは研究院内の教職員60名がZoomで参加し、大変有意義なFDとなりました。

（文学研究院）



進行役の谷本晃久教授



講師のハラスメント相談室の先生方

### 本日の内容

1. 本学におけるハラスメントの定義
2. 北海道大学大学院文学研究院  
教育・研究指導におけるハラスメント行動防止指針の紹介
3. ハラスメントを避けるための指導上の工夫
4. 事例を用いたワーク（個人ワーク、グループワーク、全体共有）
5. 本日のまとめ  
トラブルを避けるための工夫

研修はZoomにより資料を写しだして行われた

## 故Daniel Rudolf King先生を偲ぶ会を開催

5月1日（日）に逝去された故Daniel Rudolf King先生（先端生命科学研究院・助教）を偲ぶ会を5月8日（日）に、北海道大学百年記念会館にて開催しました。

会場では約160名、オンライン同時中継ではKing先生の母国である米国などから約200名と大変多くの方が参加され、先生の愛されたお人柄が偲ばれました。

開会の挨拶、黙とう、先生のご経歴

紹介の後、先端生命科学研究院より門出健次研究院長、黒川孝幸教授、グン剣萍教授、さらに先生の教え子やご友人の方々からの弔辞が読み上げられました。続いて世界中から寄せられた先生の思い出写真が紹介された後、参加者全員が献花を行って故人を偲びました。

最後に、急きょ来日されたKing先生のお父様より、先生の人生が我々に残した遺産について、参加者の心に残

るスピーチを頂きました。悲しみの中にユーモアも感じられる、King先生のお人柄を反映した会となりました。

なお、本会は研究室関係者・事務職員・その他関係各位の多大なるご協力を得て開催されました。ここに厚く御礼申し上げます。

（先端生命科学研究院）



偲ぶ会での集合写真

# 水産科学研究院・水産科学院及び水産学部が北海道漁業協同組合連合会と連携協定を締結

5月16日（月）、水産科学研究院・水産科学院及び水産学部（以下、水産科学研究院）と北海道漁業協同組合連合会（以下、北海道ぎょれん）は、「水産科学技術の発展に関すること」、「水産資源の活用に関すること」、「地域・産業振興に関すること」、「教育人材育成に関すること」、「その他目的達成に資すること」について、相互に連携し、学術・教育・文化及び地域振興に関する各分野において協力し、相互の発展・充実を目的として連携協定を締結しました。

連携協定調印式には、北海道ぎょれんから安田昌樹専務、伊藤貴彦常務、山口重幸常務、中村尚広参事が出席し、水産科学研究院から都木靖彰研究院長、細川雅史副研究院長、綿貫豊副研究院長、藤森康澄評議員が出席しました。

水産科学研究院と北海道ぎょれんとの間では、これまでも喫緊の課題に対応するために個々の教員と北海道ぎょれんとの間で共同研究を行うなど、都度取り決めて行われる散発的な活動を続けていました。しかし、昨年、太平

洋沿岸海域に発生した大規模な赤潮被害を契機に、更なる意見交換を重ね、本道水産業が抱える諸課題の解決のためには、両者が組織対組織として連携してあたる必要があるとの共通認識に達し、この度の連携協定の締結に至ったものです。今後は両組織が協力するとともに、道、道内各市町村とも連携した産学官連携による課題解決への取組促進も期待されています。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



挨拶をする都木研究院長



協定書を手にする安田専務（左）と都木研究院長（右）



集合写真



挨拶をする安田専務

## スラブ・ユーラシア研究センター公開講座 「融解する帝国—ロシア帝国崩壊を境界地域から考える」を開催

スラブ・ユーラシア研究センターでは、5月9日（月）から30日（月）まで、7回の公開講座を行いました。昨年度の公開講座は感染予防から全面オンラインでしたが、本年度は初のハイブリッド形式での開催でした。感染対策のために会場での参加は15名限定としましたが、オンラインでの参加は毎回100~140名程度（海外10か国からも含む）の参加がありました。

公開講座のテーマは、300年君臨したロシア帝国の崩壊を、帝国の近代化の試みと様々な境界地域における諸民

族の動向から考える、というものです。このテーマのもと、7名の講師たちは、それぞれ西部境界地域、極東の朝鮮人、ヴォルガ・ウラルのタタール人、北コーカサスの山岳民族、中央アジアのカザフ人とクルグズ（キルギス）人、南西部のユダヤ人、ウクライナ人などの限定された地域・民族に焦点を当てながら、広大な北ユーラシアを統治したロシア帝国の多様な統治の実践、諸民族のそれへの協力や反発、独自のネットワークや生活様式などについて解説し、さらにそれが帝国末期

の近代化の進展、革命的情勢や戦争のなかで、どう変化し、統治が「融解」していったのか、多様な観点から論じました。北ユーラシアの歴史を多様な諸民族の経験から再検討する試みには重要な意味があります。講義の最後には質疑応答の時間が設けられましたが、毎回多くの質問が出され、聴講した方々からの関心の高さがうかがえました。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



第1回講師 青島陽子准教授



第3回講師 長縄宣博教授

## 地域研究に関わる戦略的発展のためのパートナーシップ協定を締結

スラブ・ユーラシア研究センターでは、第4期中期目標・中期計画が始まるにあたり、アジアやアフリカなどの地域研究を主導する共同利用共同研究所・センター間の連携を強化すべく、2022年4月から「地域研究に関わる戦略的発展のためのパートナーシップ協定」を締結しました（以下、「戦略的パートナーシップ」）。

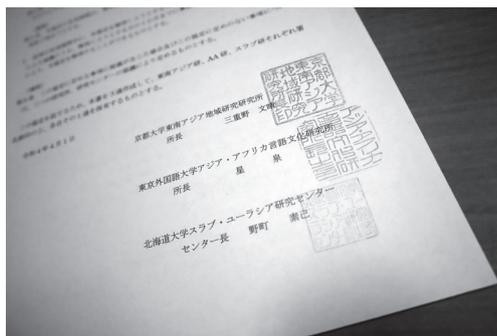
この「戦略的パートナーシップ」は、地域研究コンソーシアムなど日本の地域研究事業を長年に亘ってともに主導してきた、京都大学東南アジア地域研究研究所及び東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所との三者間によるものです。これまで、二者間においては、シンポジウムやセミナーなどの開催、運営委員会など組織面での協力、種々の情報交換などを継続

的に行ってきましたが、今回の協定締結により、質的に高い協力関係の構築を目指しています。

例えば、両研究所の所属である中東や中南米を専門とする教員が、クロスアポイントメント制度により、センターの新しいプロジェクト「生存戦略研究」などで協力を始めています。昨今

の世界情勢の激動を鑑みると、地域を超えたスケールの学問領域の創造が求められており、この「戦略的パートナーシップ」は日本の人文社会系の研究・教育をリードする役割を果たすものと期待されています。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



三者で押印された協定書

# 北方生物圏フィールド科学センター名寄教育研究棟の新棟が完成

名寄教育研究棟（森林圏北管理部）は、道北の名寄市に所在し、3つの研究林（天塩・中川・雨籠）を統括する施設です。建物には、環境科学院の大学院生が常駐し、また高度な実験設備も備えていることから、フィールド調査・分析を行う内外の研究者に多く利用していただいています。今回、改築の対象となったのは、講義室、宿泊室、分析・保管室などで、これまで複数の建物に分散していたスペースを集約し、鉄筋コンクリート2階建ての建物に効率的に配置しました。また、新たな機能として、各研究林をまたいだ共同研究、地域連携を強化するためのワーキングスペースを設置しました。ワーキングスペースの床材と、そこに置いた丸テーブル・スツールは、いずれも雨籠研究林産のシラカンバ材

で製作されました。シラカンバは、従来、林業用途では評価が低くパルプやチップの利用に限定されていたのですが、近年、利用が着実に拡大しています。その要因のひとつとして、研究林の技術スタッフが長年培ってきた育成技術によって、広葉樹の中でもっとも持続可能に利用できる資源であると広く知られたことが挙げられます。今回の利用は、教育・研究面で連携している一般社団法人「白樺プロジェクト」の協力で実現しました。シラカンバの特徴は、クリーム色がかった白色の木肌。新棟に明るい色合いを提供するとともに、そのまま教材として活用できる空間となりました。2階の宿泊施設は、今後の利用形態をふまえて従来形式の大部屋ではなく、2段ベッドを備えた2人部屋を7室設置

しました。このベッドも、研究林産のシラカンバを合板に加工した材料で作されたものです。また、シャワールームとトイレは、男女を分けない個室としオールジェンダー対応としました。自炊設備を完備した食堂は10人程度の利用が可能となっています。現在はコロナ禍のため利用の一部に制限を設けていますが、4月から宿泊利用を開始したところです。今後は、講義・研修室を活用したセミナーやサイエンスカフェの開催も検討しています。各研究林が持つ既存施設の機能と合わせて運用し、多くのフィールド実習をはじめとする教育研究活動に対応していきたいと考えています。（北方生物圏フィールド科学センター）



新棟、右側の既存庁舎と接続しています



宿泊室。ベッドの素材も研究林産のシラカンバ材



ワーキングスペース。研究林産のシラカンバ材を使ったテーブル・スツール・フローリング



雨籠研究林。シラカンバの伐採・造材現場での学生実習の様子

## 和歌山県農林大学校と和歌山研究林が包括連携協定を締結

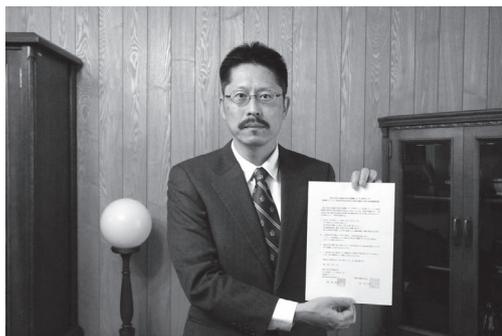
和歌山県農林大学校と北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林の間で、おもに(1)林業を担う人材育成、(2)産学官の連携による森林・林業の振興、(3)森林管理技術・教育研究・文化の振興の3点に関する取り組みを連携して行うことを目的として、5日6日(金)に包括連携協定を締結しました。

和歌山県農林大学校は農業・林業の担い手育成を目的として運営される公立の教育機関です。本協定では、同大学校の中でも林業に関する人材育成を担当する林業研修部との連携が重視されています。

2者間ではこれまでも年に1回程度の連携事業が行われてきましたが、今後は本協定に基づいて、和歌山研究林

で管理する約450ヘクタールの全域を研修フィールドとして積極的に提供していくほか、講師の相互派遣等を進めていくことで、互いの教育活動の充実や地域の林業の発展から、自然資本を活かした地域活性化などへ繋げていきたいと考えています。

(北方生物圏フィールド科学センター)



協定書を手にする中村誠宏林長



和歌山県農林大学校林業研修部(和歌山県上富田町)



協定に基づき実施された和歌山研究林での実習の様子  
(5月18日実施)

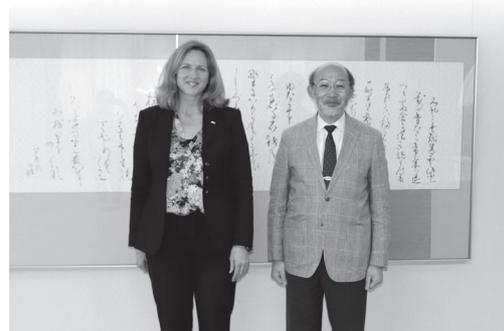
## ■ 表敬訪問

### 海外

年月日	来訪者	来訪目的
4.5.11	駐日ウズベキスタン共和国大使館 Mukhsinkhuja Abdurakhmonov 特命全権大使	今後の交流に関する懇談
4.5.26	駐日ノルウェー王国大使館 Marianne S. Berg 科学技術・高等教育参事官	今後の交流に関する懇談



Mukhsinkhuja Abdurakhmonov  
駐日ウズベキスタン共和国特命全権大使（左から4人目）



Marianne S. Berg  
駐日ノルウェー王国大使館科学技術・高等教育参事官（左）

（国際部国際連携課）

## 訃報

ダニエル ルドルフ キング  
助教 Daniel Rudolf King 氏  
(享年33歳)



先端生命科学研究院助教Daniel Rudolf King先生が、趣味のスキューバダイビング中の偶発的な事故により、令和4年5月1日に逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

King先生は昭和63年に生まれ、ペンシルバニア州立大学を卒業後、マサチューセッツ大学アマースト校で学位を取得されました。

学位取得後、平成27年11月より北海

道大学先端生命科学研究院テニュアトラック助教、かつ平成28年6月より北海道大学GI-CoREソフトマターグローバルステーション助教としてご活躍でした。

King先生は材料の性能を最大限に活用する材料設計として、硬質材料による「骨組み」を応力伝達体として組み込んだ、巨視的な複合軟材料に着目しました。具体的には、ガラス繊維で編まれた布状材料と強靱性ハイドロゲルを複合化することで、材料に加わる応力が繊維を通じて広範囲のゲルまで伝達され、効率的に散逸される設計を提唱しました。実際に得られた複合材料は、元の強靱性ゲルに対して100倍以上の靱性（ $\sim 500\text{kJ}/\text{m}^2$ ）を示し、これは炭素鋼（ $1\text{-}100\text{kJ}/\text{m}^2$ ）と比較しても5倍近く高い値でありました。本成果は、著しく強靱な複合材料を得るための設計指針を明らかにし、北海道大学からのプレスリリースを通じて多くのメディアで高く評価されてきました。

加えて、本材料の物理モデル構築や繊維—ゲル間の接着による影響、材料種の変更による普遍性の実証など学術的に興味深い研究を精力的に展開しておりました。これらの成果は高く評価され2020年度高分子学会高分子研究奨励賞、American Chemical Society (ACS) Polymer Materials Divisionにおいて2022 Young Investigators awardを受賞されました。

気さくに誰とでも会話を楽しむ朗らかな性格であり、日本で勤務してからは常用漢字の意味をすべて身に付けるなど、異文化での生活を積極的に楽しむ社交的な性格でした。

先生を偲び5月8日に「Daniel R. King先生を偲ぶ会」を百年記念会館にて執り行いました。King先生のご貢献に感謝し、謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(生命科学院・先端生命科学研究院・理学部)

## 資料

### 在籍学生数（令和4年5月1日現在）

- (注) 1 ( ) 内は女子の内数、〈 〉内は女子の比率。  
 2 [ ] 内は2年次編入学定員で外数。  
 3 [ ] 内は3年次編入学定員で外数（工学部は高専卒業者の受入れ）。  
 4 以下の表は、すべて外国人留学生数を含む。

#### 学部

学部等名	入学定員	在籍者数							研究生	聴講生	科目等履修生	特別聴講生	合計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文学部	185人 [ 人]	一人	192人	196人	226人	一人	一人	614人 (253(41.2%) )	31人	2人	2人	人	649人 (274(42.2%) )
教育学部	50 [10 ]	—	51	66	73	—	—	190 (79(41.6 ) )	11	1	2	1	205 (92(44.9 ) )
法学部	200 [10 ] [10 ]	—	225	217	236	—	—	678 (209(30.8 ) )		1	2	1	682 (210(30.8 ) )
経済学部	190	—	191	200	228	—	—	619 (124(20.0 ) )	12			6	637 (131(20.6 ) )
理学部	300	—	314	317	372	—	—	1,003 (217(21.6 ) )			1	2	1,006 (217(21.6 ) )
医学部	287 [5 ]	—	299	301	297	112	124	1,133 (525(46.3 ) )	4				1,137 (525(46.2 ) )
歯学部	53	—	57	43	54	53	58	265 (112(42.3 ) )	1				266 (112(42.1 ) )
薬学部	80	—	84	82	81	30	30	307 (131(42.7 ) )			1		308 (132(42.9 ) )
工学部	670 [10 ]	—	675	696	813	—	—	2,184 (292(13.4 ) )		1		5	2,190 (294(13.4 ) )
農学部	215	—	219	212	230	—	—	661 (244(36.9 ) )	2	3		2	668 (246(36.8 ) )
獣医学部	40	—	41	46	43	41	41	212 (124(58.5 ) )					212 (124(58.5 ) )
水産学部	215	—	226	211	210	—	—	647 (155(24.0 ) )	9			5	661 (158(23.9 ) )
現代日本学 プログラム課程	—	—	22	16	15	—	—	53 (35(66.0 ) )					53 (35(66.0 ) )
総合教育部	—	2,658	—	—	—	—	—	2,658 (749(28.2 ) )				123	2,781 (814(29.3 ) )
合計	2,485 [15 ] [30 ]	2,658	2,596	2,603	2,878	236	253	11,224 (3,249(28.9 ) )	70	8	8	145	11,455 (3,364(29.4 ) )

※学部の入学定員は、学生が第2年次に進級した場合の入学定員である。

#### 研究所等

研究所等名	研究生	特別研究学生	特別聴講学生	日本語・日本文化 研修生	日本語研修生	合計
人獣共通感染症国際共同研究所	2人	人	人	人	人	2人 (1〈 50.0〉)
量子集積エレクトロニクス研究センター				—	—	0 (0〈 0.0〉)
低温科学研究所				—	—	0 (0〈 0.0〉)
電子科学研究所	1			—	—	1 (1〈100.0〉)
遺伝子病制御研究所	1			—	—	1 (1〈100.0〉)
触媒科学研究所	2			—	—	2 (0〈 0.0〉)
スラブ・ユーラシア研究センター	1			—	—	1 (1〈100.0〉)
情報基盤センター	3			—	—	3 (3〈100.0〉)
国際連携機構				—	—	0 (0〈 0.0〉)
総合博物館				—	—	0 (0〈 0.0〉)
北方生物圏フィールド科学センター	4			—	—	4 (1〈 25.0〉)
高等教育推進機構	2		33	43	3	81 (43〈 53.1〉)
合計	16	0	33	43	3	95 (51〈 53.7〉)

## ■大学院

(注) 法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数。  
 生命科学学院の博士課程の上段は3年制博士後期課程、下段は4年制博士課程の学生数。  
 医学院の修士課程1年次の上段は公衆衛生学1年コースの学生数。

研究科名	修士課程(博士前期)				専門職学位課程				博士課程(博士後期及び博士一貫)					研 究 生	聴 講 生	科 目 等 履 修 生	特 別 研 究 生	特 別 聴 講 生	合 計		
	入学 定員	在籍者数			入学 定員	在籍者数			入学 定員	在籍者数											
		1年次	2年次	小計		1年次	2年次	3年次		小計	1年次	2年次	3年次							4年次	小計
文 学 院	90人	111人	107人	218人 (117(53.7%))	—人	—人	—人	—人	—人	35人	37人	32人	54人	—人	123人 (58(47.2%))	人	1人	人	3人	人	345人 (177(51.3%))
文学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7					7人 (2(28.6%))
文学研究科	—	—	1人	1人 (1(100.0%))	—	—	—	—	—	—	—	—	1人	48人	49人 (24(49.0%))						50人 (25(50.0%))
法学研究科	20	26	24	50 (25(50.0%))	50	25	14	9	91 (23(25.3%))	15	5	5	15	—	25 (10(40.0%))	4		1		2	173人 (62(35.8%))
情報科学学院	196	197	200	397 (36(9.1%))	—	—	—	—	—	43	27	42	48	—	117 (16(13.7%))		1		2	1	518人 (54(10.4%))
情報科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6					6人 (0(0.0%))
情報科学研究科	—	—	3人	3人 (0(0.0%))	—	—	—	—	—	—	—	—	18人	—	18 (3(16.7%))						21人 (3(14.3%))
薬学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						—
水産科学学院	114	109	127	236 (71(30.1%))	—	—	—	—	—	19	15	16	26	—	57 (15(26.3%))				1		294人 (86(29.3%))
水産科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4					4人 (1(25.0%))
環境科学学院	159	159	175	334 (106(31.7%))	—	—	—	—	—	63	57	46	81	—	184 (62(33.7%))		1		2	2	523人 (172(32.9%))
地球環境科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14					14人 (8(57.1%))
理 学 院	127	138	141	279 (47(16.8%))	—	—	—	—	—	55	42	31	60	—	133 (27(20.3%))				3		415人 (74(17.8%))
理学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15					15人 (5(33.3%))
農 学 院	142	181	187	368 (145(39.4%))	—	—	—	—	—	36	33	36	64	—	133 (44(33.1%))				2		503人 (191(38.0%))
農学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8					8人 (4(50.0%))
生命科学学院	132	131	135	266 (89(33.5%))	—	—	—	—	—	44	50	38	56	—	165 (51(30.9%))				5		436人 (141(32.3%))
先端生命科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6	7	7	3	—	—	2					2人 (2(100.0%))
教育 学 院	45	55	51	106 (62(58.5%))	—	—	—	—	—	21	14	13	77	—	104 (50(48.1%))			3		1	214人 (116(54.2%))
教育学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1			2		3人 (2(66.7%))
国際広報メディア・ 観 光 学 院	47	54	56	110 (79(71.8%))	—	—	—	—	—	12	15	13	47	—	75 (42(56.0%))		2	1		2	190人 (123(64.7%))
メディア・コミュニ ケーション研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19					19人 (10(52.6%))
保 健 学 院	40	50	58	108 (57(52.8%))	—	—	—	—	—	10	10	21	25	—	56 (21(37.5%))						164人 (78(47.6%))
保健科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14					14人 (3(21.4%))
工 学 院	326	366	394	760 (95(12.5%))	—	—	—	—	—	69	58	62	107	—	227 (40(17.6%))				6	7	1000人 (138(13.8%))
工学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19					19人 (3(15.8%))
総合化学学院	129	148	166	314 (69(22.0%))	—	—	—	—	—	38	42	43	70	—	155 (33(21.3%))				7	1	477人 (104(21.8%))
経 済 学 院	35	40	35	75 (35(46.7%))	20	22	17	—	39 (5(12.8%))	8	6	9	12	—	27 (7(25.9%))				2		143人 (49(34.3%))
経済学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2					2人 (0(0.0%))
経済学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2人	—	2 (0(0.0%))						2人 (0(0.0%))
医 学 院	20	0 23	26	49 (21(42.9%))	—	—	—	—	—	90	101	97	95	135	428 (104(24.3%))				5		482人 (126(26.1%))
医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14					14人 (8(57.1%))
医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33人	33 (7(21.2%))							33人 (7(21.2%))
歯 学 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40	32	35	44	32	143 (66(46.2%))						143人 (66(46.2%))
歯学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4					4人 (2(50.0%))
歯学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1人	1 (0(0.0%))							1人 (0(0.0%))
獣 医 学 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	18	10	5	17	50 (19(38.0%))						50人 (19(38.0%))
獣医学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5					5人 (0(0.0%))
獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1人	1 (1(100.0%))							1人 (1(100.0%))
医 理 工 学 院	12	13	13	26 (4(15.4%))	—	—	—	—	—	5	2	6	6	—	14 (2(14.3%))						40人 (6(15.0%))
国際感染症学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	16	14	7	7	44 (19(43.2%))				18		62人 (30(48.4%))
国際食資源学院	15	18	16	34 (19(55.9%))	—	—	—	—	—	6	7	8	1	—	16 (6(37.5%))						50人 (25(50.0%))
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	30	43	—	73 (20(27.4%))	—	—	—	—	—	—				2		76人 (22(28.9%))
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2					2人 (1(50.0%))
合 計	1649	1819	1915	3734 (1078(28.9%))	100	107	87	9	203 (48(23.6%))	643	594	585	971	230	2380 (727(30.5%))	140	5	7	56	19	6544人 (1946(29.7%))

(学務部学務企画課)

## 令和4年度外国人留学生数

## 【部局別】

## 学部等

令和4年5月1日現在

部局名	国費留学生		外国政府派遣留学生		私費留学生		合計
	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	学士課程	研究生等	
文教育学部	2 (1)				2 (2)	26 (14)	30 (17)
法経理薬工学農獣水産総合現代日本学		1			1	17 (7)	20 (8)
学部等	4 (1)				20 (7)	2	26 (8)
学部等					1 (1)		1 (1)
学部等	22 (2)				25 (5)	4 (1)	51 (8)
学部等						2 (2)	2 (2)
学部等		2			1 (1)	4 (1)	11 (2)
学部等	13 (6)				36 (17)		49 (23)
学部等	3 (2)				47 (31)		50 (33)
合計	44 (12)	3			139 (66)	74 (36)	260 (114)

## 大学院等

部局名	国費留学生				外国政府派遣留学生				私費留学生				合計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研究生等	
文文学部	3 (1)		9 (7)	1					81 (59)		47 (33)	3 (2)	143 (102)
文法学部											14 (8)	3 (1)	4 (1)
情報学部	2		6 (2)	1			2 (1)		34 (21)		12 (4)	3 (3)	51 (29)
情報学部				2								2	4
水産学部			4 (2)				1		16 (10)		6 (3)	1	6 (3)
環境学部	11 (4)		15 (5)	3 (1)			1 (1)	1 (1)	62 (22)		18 (5)	1	40 (17)
地球環境学部				2 (2)								1	4 (1)
地理学部	2 (1)		7 (4)						27 (9)		19 (6)		12 (6)
理学部				1 (1)								11 (2)	12 (3)
農学部	12 (11)		19 (10)	3 (2)			1 (1)		33 (16)		31 (17)	2 (2)	98 (57)
生命科学部	6		28 (14)				1 (1)		39 (13)		47 (19)	1 (1)	4 (1)
先端生命科学部				1 (1)								1 (1)	122 (48)
教育学部	1 (1)		1 (1)						39 (13)		47 (19)	1 (1)	2 (2)
国際広報メディア・観光学部	1 (1)		3 (2)						35 (30)		16 (11)	1 (1)	54 (44)
メディア・コミュニケーション学部				3 (2)					84 (65)		28 (19)	2 (1)	3 (2)
保健学部	2 (2)								10 (6)		13 (6)		16 (8)
保健学部				1 (1)								10 (2)	19 (10)
工学部	29 (9)		25 (5)				4 (2)	3	83 (20)		82 (22)	8 (2)	11 (3)
工学部				5 (2)									234 (60)
総合学部	2 (1)		6 (3)				4 (2)	3 (1)	28 (8)		55 (17)	2	11 (1)
経済学部	4 (2)		3						59 (30)		13 (4)	2 (2)	16 (3)
経済学部				1									100 (32)
医学部			6 (3)				2 (2)		6 (5)		31 (14)	2 (1)	28 (8)
医学部				1 (1)								12 (7)	59 (30)
歯学部			1 (1)								28 (17)		2 (2)
獣医学部			12 (4)								13 (7)	1 (1)	1 (1)
獣医学部												2	25 (11)
獣医学部											1 (1)		2
国際感染症学			14 (8)						2		3		5
国際食資源学			3 (2)								10 (3)		24 (11)
公共政策学									8 (7)		6 (2)		17 (11)
公共政策学										16 (7)		1 (1)	17 (8)
公共政策学												2 (1)	2 (1)
人獣共通感染症国際共同研究所				1								1 (1)	2 (1)
遺伝子病制御研究所												1 (1)	1 (1)
触媒科学研究所												2	2
スラブ・ユーラシア研究センター												1 (1)	1 (1)
情報基盤センター												3 (3)	3 (3)
北方生物圏フィールド科学センター				1								3 (1)	4 (1)
高等教育推進機構				1 (1)								34 (17)	35 (18)
合計	75 (33)	0	163 (74)	28 (14)	0	0	16 (10)	7 (2)	637 (328)	16 (7)	606 (259)	170 (77)	1,718 (804)

## 日本語研修生等

高等教育推進機構	日本語・日本文化研修生		日本語研修生		合計
	国費	私費	国費	私費	
	15 (5)	28 (19)	3 (1)		46 (25)

## 外国人留学生総数（「留学」以外の在留資格の者を含む）

学部留学生数	大学院留学生			研究生等	日本語研修生 日本語・日本文化研修生	留学生総数	外国人学生 （「留学」以外）	留学生及び外国人学生 総計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程					
183 (78)	712 (361)	16 (7)	785 (343)	282 (129)	46 (25)	2,024 (943)	50 (29)	2,074 (972)

\* ( )内は女子を内数で示す

\* 修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む

\* 研究生等には特別研究学生及び特別聴講学生を含む

(学務部国際交流課)



## 編集メモ

---

●6月3日（金）から5日（日）まで、3年ぶりの対面開催となった第64回北大祭が行われました。新型コロナウイルス感染症対策として、時間ごとに入場者数を制限してリストバンドで管理したり、イートインスペースを設け黙

食をお願いしたりと、「新しいお祭りのスタイル」での開催となりました。工夫を凝らした出店ブースやイベントでは、学生たちの笑顔が輝いていました。



北大祭当日のメインストリートの様子



工学部前のイートインスペースには「黙食」の文字

## 裏表紙メモ

---

今月のキャンパス風景は、洋上実習から函館に帰港するおしよろ丸の様子をお届けします。水産学部では、コロナ禍で行えていなかった実習を、人数制限等しながら少しずつ再開しています。広大な海をフィールドにした学生たちは、どんな学びを得てきてくれたのでしょうか。（函館キャンパス事務部）

## キャンパス風景 27 水産学部附属練習船「おしよろ丸」 (函館市弁天埠頭)



北大時報 ⑥ No.819 令和4年6月発行

北海道大学社会共創部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-2092 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>